

「広島県みなと・空港振興プラン2021（案）」について

空港振興課  
港湾振興課  
港湾漁港整備課

1 要旨

「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」の目指す県土の将来像を実現するための分野別計画である「社会資本未来プラン」における港湾・漁港及び空港部門の事業別整備計画として、「広島県みなと・空港振興プラン2021」を策定する。

2 計画の概要

- (1) 計画期間 令和3年度～令和7年度（5年間）
- (2) 投資予定額 概ね410億円
- (3) 実施方針

■ みなと振興

これまでの成果や課題，社会情勢の変化や国が掲げる中長期的な政策等を踏まえて，利用者の視点・ニーズに対応したハード・ソフト対策により，将来にわたって，地域の産業活動や安全で安心な暮らしを支え，地域の持続的発展に貢献する「みなとづくり」を推進する。

実施方針（港湾・漁港）	取組内容
<b>方針1 物流・交流を支えるみなとづくり</b> (1) 企業活動を支える物流基盤の強化 (2) 交流・賑わい機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応し生産性の向上に資する岸壁・臨港道路整備や物流用地造成</li> <li>・地域活性化に資するクルーズ客船の誘致や県の魅力を生かした観光振興に資するみなと環境の整備 など</li> </ul>
<b>方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり</b> (1) 防災・減災対策の推進 (2) 安全で快適な海上交通機能の維持・充実 (3) 環境保全や資源循環を支援するみなと空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切迫する巨大地震に対する耐震対策の推進，漁港BCP策定</li> <li>・放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策</li> <li>・自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を図るための港湾機能の充実，モーダルシフトの推進，建設副産物の有効活用など</li> </ul>
<b>方針3 地域活動を支えるみなとづくり</b> (1) 生活交通，漁業活動の円滑化や魅力的なみなとまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実</li> <li>・漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実</li> <li>・地域の魅力を活かしたみなと環境の整備 など</li> </ul>
<b>方針4 港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進</b> (1) 既存施設の有効活用 (2) 効果的で適切な維持管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換，港湾サービスの充実やポータルサイトの推進</li> <li>・デジタル技術を活用した効果的・効率的な維持管理の推進</li> </ul>

■ 空港振興

中四国における国内外のビジネス・観光等の交流の出入口であるグローバルゲートウェイとして，航空便利用者の多様なニーズに対応するため，広島空港の将来像を運営権者と共有し，官民で構成される広島県空港振興協議会や関係機関と連携し，航空ネットワークの拡充や，空港アクセスの利便性向上に取り組む。

実施方針（空港）	取組内容
<b>方針1 航空ネットワークの拡充</b> (1) 新型コロナウイルス感染症の収束状況を踏まえた需要回復 (2) 新たな路線誘致や旅客需要の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存路線の早期復便に向け，関係機関と協働した需要回復策の実施</li> <li>・東アジア・東南アジアの路線拡充</li> <li>・中四国全域のインバウンド旅客をターゲットとした需要創出</li> </ul>
<b>方針2 空港アクセスの利便性向上</b> (1) 速達性の向上や定時制の確保など総合的なアクセス対策を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空港アクセスに資する道路整備の推進</li> <li>・多様なニーズに対応したアクセス手段の確保</li> <li>・災害等発生時の円滑なアクセス確保</li> <li>・広島空港アクセス対策アクションプログラムの推進</li> </ul>

(4) 実施箇所

実施箇所は，施策への貢献度などの波及効果のほか，緊急性や実施環境などを評価し各市町の意見を伺う社会資本整備調整会議を経て選定した。

【実施箇所数（県事業）】※（ ）は新規箇所数（単位：箇所）

区分	広島県みなと・空港振興プラン（R3～R7）			
	合計	完成	一部完成	継続
港湾	38 (14)	10 (5)	3 (1)	25 (8)
漁港	8 (3)	3 (—)	— (—)	5 (3)
合計	46 (17)	13 (5)	3 (1)	30 (11)

### 3 成果目標

「安心の誇りと挑戦 ひろしまビジョン」に掲げる10年後の目指す姿、指標（ビジョン指標）の実効性を確保するため、5年後の到達点となるビジョン指標と具体的な目標値（KPI等）を設定し取組を推進する。

#### (1) 港湾・漁港

##### 〔方針1〕 物流・交流を支えるみなとづくり

（ビジョン指標）

指標名	現状 (R1)	目標 (R7)
県内港におけるコンテナ取扱量	36万TEU	42万TEU

（ビジョンアクションプランKPI〔重要業績評価指標〕）

指標名	現状 (R2)	目標 (R7)
県内港から東南アジア主要港までの外貿コンテナの海上輸送日数（平均）	14日	11日

（その他の指標：利用者ニーズへの対応）

指標名	現状 (R2)	目標 (R7)
港湾に関連する新たな物流・工業用地の提供*	—	+29ha

※令和3年度から令和7年度の期間中において、新たに利用や引渡しが可能となる用地面積

##### 〔方針2〕 生活・暮らしを支えるみなとづくり

（その他の指標：安全・安心の確保）

指標名	現状 (R2)	目標 (R7)
港湾における緊急物資供給可能人口カバー率**1	33%	53%
BCP策定漁港数（第3種漁港**2）	0%	100%

※1 耐震強化岸壁により緊急物資の供給が可能となる人口割合

※2 利用範囲が全国的な漁港

##### 〔方針3〕 地域活動を支えるみなとづくり

（その他の指標：地域振興の推進）

指標名	現状 (R2)	目標 (R7)
みなとオアシス登録数	13箇所	15箇所

##### 〔方針4〕 港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進

（その他の指標：施設の有効利用、適切な維持管理の推進）

指標名	現状 (R1)	目標 (R7)
ビジター船舶係留可能箇所数	18箇所	19箇所
ビジター桟橋の年間利用隻数	4.7千隻・日	6.7千隻・日
放置艇隻数	約11千隻	0隻

#### (2) 空港

##### 〔方針1〕 航空ネットワークの拡充

（ビジョン指標）

指標名	現状 (R1)	目標 (R7)
広島空港利用者数	297万人	310万人

（ビジョンアクションプランKPI〔重要業績評価指標〕）

指標名	現状 (R2)	目標 (R7)
国際定期路線数・便数	5路線・26便	7路線・31便

##### 〔方針2〕 空港アクセスの利便性向上

（ビジョンアクションプランKPI〔重要業績評価指標〕）

指標名	現状 (R2)	目標 (R7)
広島空港と主要路線を結ぶ公共交通ルート数	9ルート	12ルート

計画の概要 ① 計画期間：令和3年度～令和7年度(5年間) ② 投資予定額：約410億円(5年間, 港湾と漁港の計)

## 現行プラン策定後の状況変化

- 【港湾・漁港】**
- ▶ アジアの各地域の経済成長をはじめ、多くの新興国における経済活動の活発化により、国や企業間の競争が激化。
  - ▶ 2020年東京オリンピック・パラリンピックの延期や2025年大阪万博の開催決定。
  - ▶ 観光ディステーションにより瀬戸内(の島々)が国内外から旅行先として注目。
  - ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響によるクルーズ客船の寄港減少。
  - ▶ 「放置艇解消のための基本方針」策定(平成29年度)。
- 【空港】**
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響。
  - ▶ アジアの経済成長や国際的な観光需要の高まりを背景とした訪日外国人観光客の増加。
  - ▶ 空港経営改革の導入。
  - ▶ 訪日外国人観光客の増加などにより、空港アクセスに対する利用者ニーズは多様化。
  - ▶ 平成30年7月豪雨災害など頻発する大規模災害。

## 課題

- 【港湾・漁港】**
- ▶ 企業活動のグローバル化や船舶の大型化への対応や物流用地の不足。
  - ▶ 交通渋滞を解消し、企業等の生産性向上に資する円滑な人流・物流ネットワークの構築への対応。
  - ▶ 瀬戸内の島々が注目されているなか臨海部における新たな交流・賑わいの創出への対応。
  - ▶ クルーズ客船の安全・安心な利用に向けた寄港時における感染症予防対策・体制の構築。
  - ▶ 切迫している南海トラフ地震の発生や近年の台風の大型化などを踏まえた港湾・漁港施設の防災対策への対応。
  - ▶ 災害発生土砂や公共残土・浚渫土等の受入施設不足。(新たな受入施設の確保)
  - ▶ 担い手確保に資する就労環境改善のため、地域の産業活動を支える漁業施設などの安全性や利便性の向上に向けた取組。
- 【空港】**
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響により、減退している旅客需要の掘り起こしによる既存航空路線の維持・拡充や空港アクセスバスの復便・増便による利便性確保。
  - ▶ 空港経営改革導入後の運営権者との連携体制の構築。
  - ▶ 利用者ニーズの多様化に対応した、より多様で広域的なアクセス手段の確保や、大規模災害発生時の円滑なアクセス確保。

ハード・ソフト  
一体となった  
『みなと振興』  
の推進

新型コロナウ  
イルス感染症  
の収束状況を  
踏まえた  
『空港振興』  
の推進

## みなと振興プランの実施方針

これまでの成果や課題、社会情勢の変化や国が掲げる中長期的な政策等を踏まえて、利用者の視点・ニーズに対応したハード・ソフト対策により、将来にわたって、地域の産業活動や安全で安心な暮らしを支え、地域の持続的発展に貢献する「みなとづくり」を推進していく。

- 方針1 物流・交流を支えるみなとづくり**  
～企業活動を支える物流基盤の強化～  
～交流・賑わい機能の強化～
- 方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり**  
～防災・減災対策の推進～  
～安全で快適な海上交通機能の維持・充実～  
～環境保全や資源循環を支援するみなと空間の創出～
- 方針3 地域活動を支えるみなとづくり**  
～生活交通、漁業活動の円滑化や魅力的なみなとまちづくりの推進～
- 方針4 港湾・漁港施設の有効利用や適正な維持管理の推進**  
～既存施設の有効活用～  
～効果的で適正な維持管理の推進～

## 空港振興プランの実施方針

広島空港の将来像を運営権者と共有し、官民で構成される広島県空港振興協議会や関係機関と連携し、中四国における国内外のビジネス・観光等の交流の出入り口であるグローバルゲートウェイとして航空便利用者の多様なニーズに対応するため、航空ネットワークの拡充や、空港アクセスの利便性向上に取り組む。

- 方針1 航空ネットワークの拡充**  
～新型コロナウイルス感染症の収束状況を踏まえた需要回復  
・既存路線の早期復便に向け、関係機関と協働した需要回復策の実施  
～新たな路線誘致や旅客需要の拡大  
・東アジア・東南アジアの路線拡充  
・中四国全域のインバウンド旅客をターゲットとした需要創出
- 方針2 空港アクセスの利便性向上**  
～速達性の向上や定時性の確保など総合的なアクセス対策を推進  
・空港アクセスに資する道路整備の推進  
・多様なニーズに対応したアクセス手段の確保  
・災害等発生時の円滑なアクセス確保  
・広島空港アクセス対策アクションプログラムの推進

◆方針1 物流・交流を支えるみたとづくり

【取組1-1】～企業活動を支える物流基盤の強化

- I 企業活動のグローバル化や船舶の大型化への対応
  - ⇒大水深岸壁、航路・泊地の整備など港湾機能の拡充を図ります。
  - ⇒高度な流通加工等に対応したロジスティック機能の充実・強化を図ります。
- II 生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成
  - ⇒県西部の物流拠点における広島市東西を結ぶ物流交通基盤の整備を推進します。
  - ⇒臨海部における物流関連用地の造成、港湾物流基盤の充実を図ります。
- III 港湾サービスの充実およびポートセールス活動の推進
  - ⇒瀬戸内海全体における最適な港湾物流ネットワークの形成に取り組みます。

広島港出島地区  
国際コンテナターミナル



福山港箕沖地区  
国際コンテナターミナル



臨港道路廿日市草津線  
広島はつがいち大橋 完成イメージ



【取組1-2】～交流・賑わい機能の強化

- I 瀬戸内海や県内の魅力を活かした観光振興に資するみたと環境の整備
  - ⇒世界遺産「厳島神社」を始めとする観光の玄関口における港湾施設の充実を図ります。
- II 地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策
  - ⇒クルーズ客船の誘致に向けた港湾施設整備、寄港時のおもてなしの充実に取り組みます。
  - ⇒プレジャーボート等による海からの観光地訪問など新たなクルージングの推進を図ります。

宮島口周辺整備  
完成イメージ  
(厳島港宮島口地区)



クルーズバース整備  
完成イメージ  
(広島港宇品地区)



広島港クルーズ客船寄港時  
のおもてなし状況(宇品地区)



(五日市地区)



◆方針2 生活・暮らしを支えるみたとづくり

【取組2-1】～防災・減災対策の推進

- I 切迫する巨大地震に対する耐震対策の推進
  - ⇒港湾・漁港施設の耐震強化岸壁等の整備を推進します。
- II 地域水産業の災害発生後の業務継続に資する漁港BCPの策定
  - ⇒漁港における水産物の生産・流通に関する業務継続計画の策定に取り組みます。

【取組2-2】～安全で快適な海上交通機能の維持・充実

- I 放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策
  - ⇒プレジャーボート係留保管施設の整備など放置艇対策に取り組みます。
- II 島嶼部を結ぶ生活航路の維持、利用環境の充実
  - ⇒主要施設のバリアフリー化など生活航路等における安全で快適な利用環境の整備を推進します。
  - ⇒島嶼部と本土を結ぶ海上交通結節点となる港湾機能の維持のため整備を推進します。

【取組2-3】～環境保全や資源循環を支援するみたと空間の創出

- I 災害発生土砂や公共残土・浚渫土等建設副産物の有効活用や海域環境の改善
  - ⇒浚渫土等の受入施設整備を推進します。
  - ⇒浚渫土を有効利用した藻場、干潟等の浅海域の保全・再生に取り組みます。
- II 自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を図るための港湾機能の充実
  - ⇒バイオマス等自然・再生エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を図るための港湾機能の充実を図ります。
  - ⇒島嶼部と本土を結ぶ海上交通結節点となる港湾機能の維持のため整備を推進します。
- III モーダルシフトの推進(環境負荷の少ない物流体系への転換支援)
  - ⇒港湾運営会社と連携した集荷促進を図ります。

災害発生土や  
浚渫土等の受入施設  
(尾道糸崎港貝野地区)



尾道糸崎港機織地区  
浚渫工事で発生した  
浚渫土を利用し  
造成した人工干潟  
(福田港海老地区)



バイオマス燃料の  
輸送・保管施設  
(尾道糸崎港機織地区)



方針3 地域活動を支えるみたとづくり

【取組3-1】～生活交通、漁業活動の円滑化や魅力的なみたとまちづくりの推進

- I 島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実【再掲】
- II 漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実
- III 地域の魅力を活かしたみたと環境の整備
  - ⇒みたとオアシスの活用を推進します。

生活・観光航路の利用状況  
(厳島港胡町地区)



漁業活動を支える防波堤整備  
(走漁港本浦地区)



港湾緑地を利用したみたとオアシスのイベント  
(尾道糸崎港尾道地区)



方針4 港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進

【取組4-1】～既存施設の有効活用

- I 遊休施設など既存ストックを活用した  
新たなニーズへの利用転換
- II 既存施設の利用を促す港湾サービスの充実や  
ポートセールスの推進【再掲】

瀬戸内クルージングの各種情報をポータルサイト等でPR  
・係留施設情報、クルージングコース、周辺観光施設等  
⇒利用者ニーズ等を踏まえサイトを拡充



【取組4-2】～効果的で適切な維持管理の推進

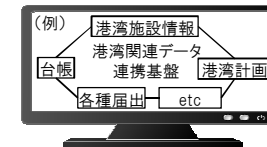
- I デジタル技術を活用した効果的・効率的な維持管理の推進

UAVを活用した効率的な点検

沿岸カメラにより臨港道路等の被災時における  
施設状況の確認や混雑情報をリアルタイム発信



【国との連携】  
～港湾関連データ連携基盤の構築に向けた取組～  
港湾に関する情報を電子化することで、情報の利活用による  
利便性・生産性を高める「サイバーポート」の実現を目指す



◆成果目標◆

指 標 名	現状 (R2)	目標 (R7)
県内港におけるコンテナ取扱量	36万TEU (R1)	42万TEU
県内港から東南アジア主要港までの 外貿コンテナの海上輸送日数(平均)	14日	11日
港湾に関連する新たな物流・工業用地の提供 ※1	—	+29ha
港湾における緊急物資供給可能人口カバー率 ※2	33%	53%
BCP策定漁港数(第3種漁港 ※3)	0%	100%
みたとオアシス登録数	13箇所	15箇所
プレジャーボート係留可能箇所数	18箇所	19箇所
ビジター棧橋の年間利用隻数	約4.7千隻・日 (R1)	約6.7千隻・日
放置艇隻数	約11千隻 (R1)	0隻

※1 令和3年度から令和7年度の期間中において、新たに利用や引渡しが可能となる用地面積

※2 耐震強化岸壁により緊急物資の供給が可能となる人口割合

※3 利用範囲が全国的な漁港



中四国における国内外のビジネス・観光等の交流の出入口であるグローバルゲートウェイとして、航空利用者の多様なニーズに対応するため、広島空港の将来像を空港運営権者と共有し、官民で構成される広島県空港振興協議会や関係機関と連携し、航空ネットワークの拡充や、空港アクセスの利便性向上に取り組む。

### 方針1:航空ネットワークの拡充

#### 新型コロナウイルス感染症の収束状況を踏まえた需要回復

##### I 国内線

基幹路線である羽田線について、ビジネス、観光等のターゲットに応じた需要回復策を実施するとともに、他路線について、就航先自治体等とも連携した需要回復施策を実施し、コロナ前の需要や便数の早期回復に努める。

##### II 国際線

- ① コロナの収束状況や、日本及び就航先政府の水際対策の状況等を踏まえながら、復便に向けた路線ごとの段階的なロードマップを空港運営権者と共有し、連携して早期のコロナ前の便数回復に努める。
- ② 復便に当たって不可欠な水際対策の強化に向け、空港運営権者や地元関係機関と連携し、ビル施設の改修等検疫体制の強化に向けた環境づくりに努めるとともに、検疫体制の主体である国へ、検査人員確保等の必要な働きかけを行う。
- ③ 空港運営権者や観光部局、航空会社等と一体となって、各路線の復便段階ごとのターゲットに応じた需要回復策を実施し、早期の復便を後押しする。

#### 新たな路線誘致や旅客需要の拡大

##### I 国内線

- ① インバウンドの取り込みを意識した首都圏空港との国際線乗継便としてのLCC便の拡充に取り組む。
- ② 既存の公共交通機関での往来に長時間を要する地方都市との間について、当該自治体とも連携し、リージョナルキャリアによる需要に応じた地方間路線の新規誘致に取り組む。

##### II 国際線

- ① 今後の経済発展等に伴う航空需要の拡大が見込まれ、県内企業の海外展開に伴うビジネスニーズが高まりを見せている東アジア・東南アジアの路線拡充に取り組む。
- ② アジア域内ハブ空港との利用拡大を図り、路線を拡充することにより、乗継利便性の向上を図る。
- ③ 後背圏である瀬戸内、山陰エリア全体に広がる豊富な観光資源を活かし、空港運営権者や観光部局とも連携し、中四国全域のインバウンド旅客をターゲットとした需要創出に取り組む。

#### 【参考】運営権者「広島国際空港㈱」が提案した30年後の広島空港「将来ビジョン」(抜粋)

#### 航空ネットワーク



目指す航空ネットワーク像	
国内線	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ LCCの拠点化による低価格路線の拡充</li> <li>■ 地方路線の拡充</li> </ul>
国際線	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アジア主要路線のデイリー化</li> <li>■ 東アジアの地方都市や、東南・南アジア路線の誘致</li> </ul>
エアラインマーケティング	
就航・増便促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 専門性と地域との強固なネットワークを有する誘致体制</li> <li>■ 地域の「草の根」レベルの航空需要の集約</li> <li>■ 内際共用を含むスポットの増設による受入体制整備</li> <li>■ グランドハンドリングの体制・容量強化</li> </ul>
料金施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 就航コストや固定費の低減</li> <li>■ 復便や新規就航を促す割引・インセンティブ</li> <li>■ 就航後も路線採算性向上を支援する料金施策</li> </ul>

### 方針2:空港アクセスの利便性向上

#### 速達性の向上や定時性の確保など総合的なアクセス対策を推進

##### I 空港アクセスに資する道路整備の推進

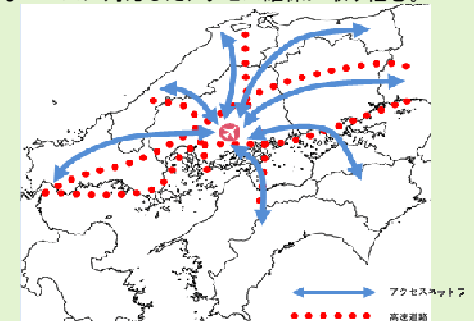
トリプルウェイの早期完成や広域的な道路網の整備などアクセス向上に資する道路整備を推進する。

- 広島都市圏とのアクセス
  - ・ 広島高速5号線及び一般国道2号(東広島・安芸バイパス)の整備によるトリプルウェイの完成
- 備後圏とのアクセス
  - ・ 一般国道2号(福山道路、木原道路)の整備

##### II 多様なニーズに対応したアクセス手段の確保

県内外の主要拠点と空港を結ぶ新規アクセス路線の開設やデマンド交通、レンタカーの活用などによる多様なアクセス手段の確保など、多様なニーズに対応したアクセス確保に取り組む。

- 県内外の主要拠点と空港を結ぶ
  - 新規アクセス路線の開設
  - 観光地等への新たな空港アクセスバス路線の開設
  - 高速バスの空港立ち寄り検討 など
- 多様なアクセス手段の確保
  - デマンド交通の導入など柔軟なバス運行
  - レンタカーの活用促進
  - 空港を結節点とした広域移動に係るMaaSの活用検討 など



##### III 災害等発生時の円滑なアクセス確保

大規模災害等の発生時に、関係機関が連携して利用者目線に立ったオペレーションを行うことで、利用者にとって使い勝手の良いアクセス確保が図られるよう取り組んでいく。  
 ・ 空港ホームページやデジタルサイネージでのリアルタイムな情報発信 など

##### IV 広島空港アクセス対策アクションプログラムの推進

官民で構成する広島県空港振興協議会に設置した広島空港アクセス対策ワーキング部会において、令和元年12月に見直した広島空港アクセス対策アクションプログラム(H23.3策定)について、関係機関と連携し推進する。

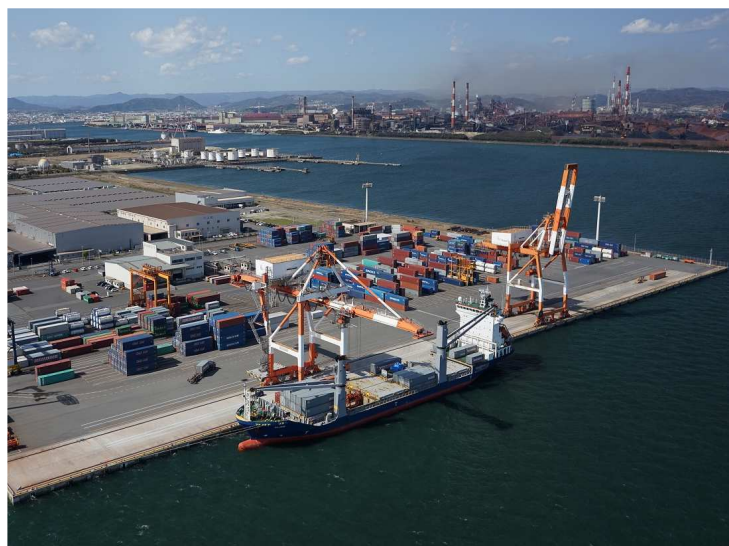
#### ◆ 成果目標 ◆

項目	現状 (R2)	目標値 (R7)
利用者数	297 万人/年 (R1)	310 万人/年
国際定期路線数・便数	5 路線・26 便/週	7 路線・31 便/週
広島空港と主要拠点を結ぶ公共交通ルート数	9 ルート	12 ルート





# 広島県みなと・空港振興プラン 2021 (案)



令和3年●月



広島県

# 目次

§ 1	計画の基本的事項	
I	策定の趣旨	1
II	計画の概要	1
III	計画の位置づけ	1
IV	前プランの評価	2
§ 2	みなと振興	
I	プランの方針	5
1	みなとを取り巻く環境	6
2	みなとにおける現状（強みと弱み）	8
3	港湾・漁港が担う「目指す県土の将来像」	11
4	みなとの取り組むべき課題	12
5	基本方針	17
II	実施計画	19
■	優先度評価	19
■	優先度評価指標	19
■	優先度ランクごとの対応方針	20
■	実施計画	20
■	投資予定額	21
◆	方針1 物流・交流を支えるみなとづくり	22
◆	方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり	25
◆	方針3 地域活動を支えるみなとづくり	28
◆	方針4 港湾・漁港施設の有効活用や適正な維持管理の推進	29
□	他事業との連携	33
III	成果目標	34



§ 3	空港振興	
I	プランの方針	35
1	空港を取り巻く環境・状況変化	36
2	広島空港の現状（強みと弱み）	39
3	広島空港が担う「目指す県土の将来像」	48
4	広島空港の取り組むべき課題	48
5	基本方針	51
II	実施計画	53
1	航空ネットワークの拡充	53
2	空港アクセスの利便性向上	54
III	成果目標	57
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参考</span> 広島ヘリポートの概要	58
§ 4	実施箇所	59
	用語解説	64

## ～ § 1 計画の基本的事項～

## I 策定の趣旨

「広島県みなと・空港振興プラン 2021」は、広島県の総合計画「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」の目指す県土の将来像を実現するため、社会資本分野のマネジメントの基本方針として策定している「社会資本未来プラン」における港湾・漁港・空港部門の事業別計画として策定するものです。

なお、本プランは港湾及び漁港に関する『みなと振興』と『空港振興』で構成します。

※このプランの対象となる港湾・漁港は管理者が県であるものとしている。

## II 計画の概要

**期間：令和3年度～令和7年度（5年間）**

「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」及び「社会資本未来プラン」に掲げる10年後の目指す将来像に向けて、具体的に取り組むべき事業別整備計画として5年間とします。

**投資予定額：概ね410億円**

投資予定額は、「中期財政運営方針」を前提として、「社会資本未来プラン」における、社会資本整備の優先順位を踏まえて、設定しています。

## III 計画の位置づけ

**安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン** (R2.10策定)

～ 仕事も暮らしも。里もまちも。それぞれの欲張りなライフスタイルの実現～

**社会資本未来プラン** (R0.0策定)

～社会変化に適応したインフラマネジメントの推進～

**「広島県みなと・空港振興プラン 2021」**

## IV 前プランの評価

### 前プランでの主な取組成果《みなと振興プラン》

基本方針	方針の柱		主な成果（■ハード、◇ソフト）
みなと振興の重点化	強固な経済交流基盤を支える みなとづくり	新たな産業、基幹産業の競争力強化	■広島港五日市・廿日市地区（臨港道路）部分完成 ■広島港海田地区（岸壁補強・荷役機械）完成
		交流、賑わい機能の強化	■厳島港宮島口地区旅客ターミナル完成 ■広島港宇品地区クルーズターミナル事業着手 ◇「瀬戸内クルージングポータルサイト」Englishページ開設
	生活・暮らしを守る みなとづくり	海域環境の修復	■福山港内港地区（底質改善）
		耐震強化施設の整備	■広島港宇品地区（耐震強化岸壁）着手 ◇港湾BCPの策定（H29.3）
		安心して利用できる施設の充実	■蒲刈港宮盛地区（防波堤） ■草津漁港草津地区（岸壁補強）
	地域活動を支える みなとづくり	海上交通の安全確保	■千年港岩船地区（小型船舶だまり） ■小用港ウシシ地区（小型船舶だまり）
魅力的なみなとまちづくりの推進		※交流、賑わい機能の強化と同じため省略	
港湾施設の有効活用	既存施設の有効活用	■鯉崎港垂水地区（浮棧橋） ■横田港家廻地区（浮棧橋）	
	既存施設を最大限活用するソフト施策の展開	◇宮島口旅客ターミナル供用開始（R2.2） ◇走漁港用地への陸上養殖施設の進出（R2.6） ◇みなとオアシス登録件数12件（R2末時点国内最多）	
港湾施設の適正な維持管理			◇広島港コンテナ貨物取扱量過去最高（R1） ◇広島港へのクルーズ客船の寄港回数が過去最高（R1） ◇広島港コンテナターミナル運営の民営化（H29.4） ◇インセンティブ制度の創設
			◇港湾施設修繕方針の一部改訂（H29.3） ◇港湾・漁港施設維持管理計画書の改訂（H29.4） ◇放置艇解消のための基本方針の策定（H30.3）





## 前プランでの主な取組成果《空港振興プラン》

基本方針	主な成果
<p>空港施設機能の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運用時間の延長（7:30～21:30⇒22:30）（H29.10）</li> <li>○ エプロンスポットの一部マルチ化（H30完了）</li> <li>○ 滑走路端安全区域（RESA）の整備着手（H31）</li> <li>○ 滑走路及び誘導路の計画的な更新・修繕（R2完了）</li> <li>○ 県営駐車場駐車料金低廉化（30分無料化）の継続</li> </ul>
<p>航空ネットワークの更なる充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国内線 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運用時間の延長を活用し、H29.10に羽田線の最終便が増便</li> <li>・ H30.3以降、羽田線の一部機材が大型化（貨物輸送量の増強に寄与）</li> </ul> </li> <li>○ 国際線 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H29.10にシルクエアによるシンガポール線就航（日本初就航）</li> <li>・ R元.12にノックエア（LCC）によるバンコク線就航（日本初就航）</li> <li>・ R2.3に香港エクスプレス（LCC）による香港線が1便増便</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">（※上記は新型コロナウイルス感染症拡大前の運航計画ダイヤ）</p>
<p>空港アクセスの改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 速達性向上のためのトリプルウェイ化※を推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>※ ①広島高速5号線、②一般国道2号東広島・安芸バイパス、③白市ルート（JR山陽本線+白市空港連絡バス）</li> </ul> </li> <li>○ 定時性向上のため山陽自動車道での交通安全対策</li> <li>○ サービスの高質化・快適性向上のための対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リムジンバスネットワークの拡充 7路線→9路線 （H28三次※<sup>1</sup>・尾道※<sup>2</sup>、H29西条、R元尾道）※<sup>1</sup>R2.9廃止 ※<sup>2</sup>H31.1廃止</li> <li>・ 「Visit Hiroshima Tourist Pass」の空港リムジンバス適用など、増加するインバウンド旅客への対応強化</li> </ul> </li> <li>○ 渋滞・事故発生時の対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島空港7ヶ所情報システム（広島空港など8か所にデジタルサイネージ設置）を改修し、表示時刻や関連情報を見やすくするなど、視認性を向上（R元.12）</li> <li>・ 山陽道通行止め等による広島リムジン運休時に、利用者をJR山陽本線へ誘導するとともに、白市空港連絡バスを増便運行</li> </ul> </li> <li>○ 官民で組織する広島県空港振興協議会において、令和元年12月に広島空港アクセス対策アクションプログラム（H22策定）を見直し</li> </ul>
<p>空港経営改革への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広島県空港振興協議会の空港活性化部会から空港の将来像、今後の運営のあり方について提言を受け、「広島空港の経営改革に係る県の基本方針（H29.3）」を策定し、空港経営改革の導入を推進</li> <li>○ 空港経営改革推進委員会から広島空港の経営改革について受けた提言（H30.10）を基に国へ要望を行い、令和3年8月から民間事業者による運営事業開始が実現</li> </ul>



## 主な成果目標と達成状況

「社会資本未来プラン」に基づいた、客観的な事業評価により、優先順位が高い箇所から、効果的・効率的な整備を進めるとともに、ハード・ソフト一体となって計画的に施策の推進に努めてきました。目標値の達成は一部困難な状況ではありますが、施設整備については概ね順調に進捗しています。

### ◇ 主な目標値の達成状況

項目			H26 現況値	R2 末目標値	R2 末見込み
コンテナ航路の維持・拡充	広島港	中国	週 6 便 (H26d)	現状値を維持	週 7 便
		東南アジア	週 2 便 (H26d)	現状値より向上	週 1 便
	福山港	中国	週 6 便 (H26d)	現状値を維持	週 6 便
		東南アジア	週 1 便 (H26d)	現状値より向上	週 1 便
運営が民営化された港湾			0 港	1 港	1 港
クルーズ客船の入港回数(1 万トン以上)			15 回/年 (H26d)	43 回/年	2 回/年 R1:40 回/年 ※1
ビジター船舶の利用回数(プレジャーボート等)			4,961 隻・日/年 (H26d)	7,200 隻・日/年	4,708 隻・日/年 ※2
放置艇禁止区域内でのプレジャーボート隻数			93 隻 (H26d)	0 隻	23 隻
港湾における緊急物資供給可能人口カバー率			32% (H27d)	52%	52%
港湾 BCP 策定			0 港	3 港	3 港
広島空港国内定期路線数・便数			5 路線・25 便/日	5 路線・26 便/日	5 路線・23 便/日 (5 路線・25 便/日) ※3
広島空港国際定期路線数・便数			4 路線・28 便/週	7 路線・36 便/週	全路線運休 (5 路線・26 便/週) ※3
広島空港利用者数			271.9 万人/年	316.5 万人/年	95 万人

※1 クルーズ客船の入港回数は新型コロナウイルス感染症により R2 年度の入港は 12 隻の見込みとなったが、R1 年度の入港は 40 隻と概ね目標を達成している。  
 ※2 ビジター船舶の利用隻数は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛や感染拡大防止対策による施設の受入中止などの状況もあり R1 年度のデータを掲載する。  
 ※3 新型コロナウイルス感染症拡大前の運航予定を記載している。

### ◇ 事業完成箇所（港湾；実績 10 箇所（予定）/計画 11 箇所，漁港；実績 5 箇所/計画 5 箇所）

港湾	主な事業箇所
計画通り完成 (8 箇所)	広島港海田地区（荷役機械）、広島港海田地区（岸壁補強）、小用港ウシシ地区、蒲刈港宮盛地区、鯉崎港垂水地区、尾道糸崎港西御所地区、生口港洲江地区、福山港内港地区
計跟前倒し完成 (2 箇所)	竹原港北崎地区、千年港岩船地区
完成予定が未完了 (3 箇所)	広島港宇品地区、御手洗港三角地区、福山港内港地区
漁港	主な事業箇所
計画通り完成 (4 箇所)	草津漁港草津地区、豊島漁港丸山地区、沖浦漁港明石地区、横田漁港家廻地区
計跟前倒し完成 (1 箇所)	倉橋漁港須川地区
完成予定が未完了 (1 箇所)	音戸漁港鰯浜地区

# ～ § 2 みなと振興～

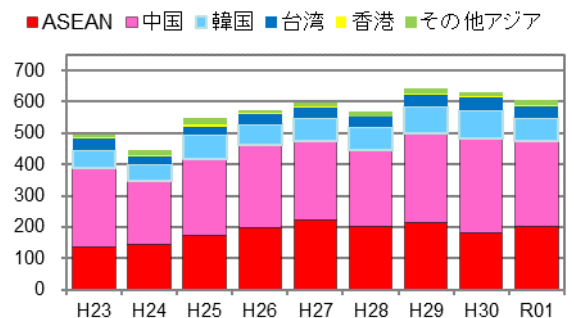
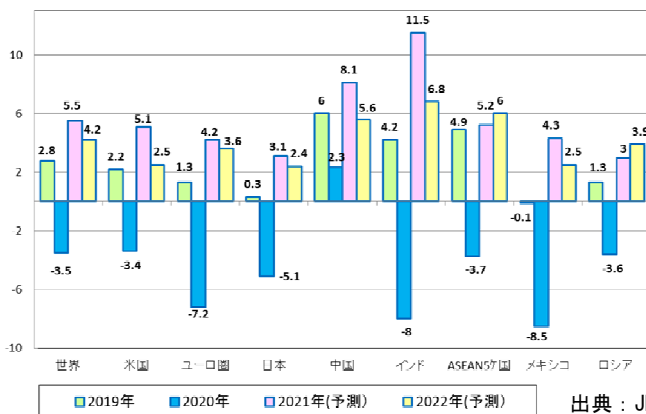


# I プランの方針

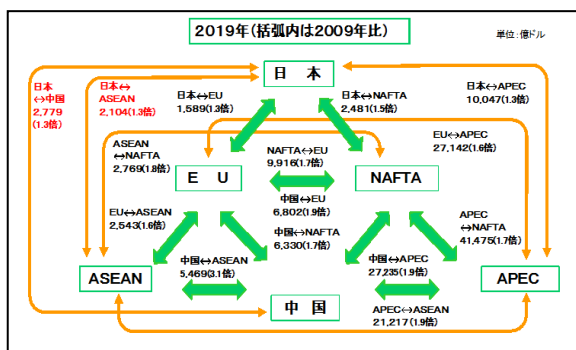
## 1 みなとを取り巻く環境

- 世界の情勢として、これまでの欧米や中国を中心とした海外市場にとどまらず、アジアの各地域の経済成長をはじめ、多くの新興国における経済活動が活発化しており、東南アジア地域との経済的な結びつきが強まってきている。日本企業の海外における拠点進出など企業活動のグローバル化により、経済の相互依存関係や交易が拡大しているとともに、これらの国や企業との新たな競争が激しさを増している。
- また、海外の港湾では、急速に進化する IT 技術を活用して、港湾・貿易手続きの更なる効率化の取組が活発化しているため、国策として、港湾の完全電子化と港湾関連データ連携基盤の構築やデジタル技術を活用した世界水準の生産性と良好な労働環境を有するターミナルの構築に向けた取組が進められている。
- 他方、近年の訪日外国人旅行者は急増し、アジアを中心とした大型クルーズ客船や欧米をと中心とした中小型クルーズ客船による、臨海部への観光客の来訪は、地域の雇用や活力を創出し、観光業をはじめとした地域の振興が図られ、豊かな地域づくりに資することから、魅力的な港湾空間の形成が求められている。
- 今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況となっているが、国やクルーズ業界では利用者に対する安全確保に向けたガイドラインの検討や策定が進むなど、利用回復に向けた取組が行われていることから、今後においても地域経済の活性化に資するクルーズ客船の寄港・誘致を促進するとともに、瀬戸内の島々の魅力に触れ合える観光型高速クルーザーの就航など海からの国内外訪問客に対応した多様な受入環境の整備が求められている。
- このような環境のなか、物流の効率化、産業の国際競争力の強化、効率的で安全性の高い輸送体系の構築、地域が持つ資源や魅力の活用など、幅広い機能の発揮が求められており、施設整備等のハード面の施策と港湾施設の効率的な運営等のソフト面の施策を総合的に推進することが重要となっている。

### ◇ アジア地域等の GDP 実質成長率



### ◇ 東アジア地域等との2国・地域間貿易額（輸出+輸入）

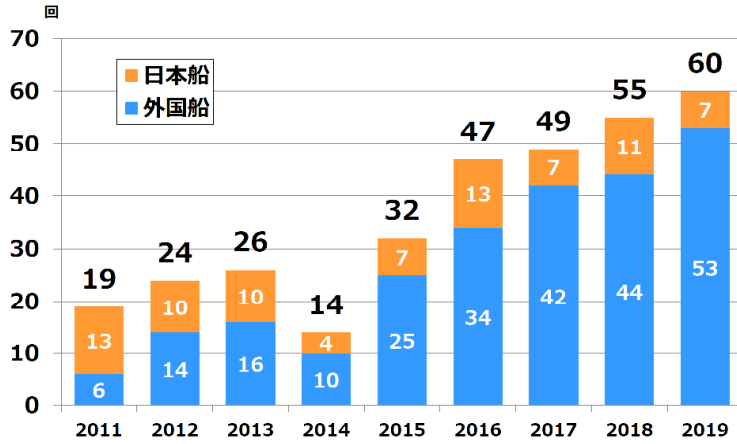


- 注 1)  
 NAFTA: 北米自由貿易協定  
 アメリカ、カナダ、メキシコの3国間の自由貿易協定
- 注 2)  
 EU: 欧州連合  
 欧州連合条約により設立された27カ国からなるヨーロッパの地域統合体
- 注 3)  
 ASEAN: 東南アジア諸国連合  
 東南アジア地域の10カ国からなる地域協力機構
- 注 4)  
 APEC: アジア太平洋経済協力  
 アジア太平洋地域の21の国と地域が参加する経済協力の枠組み

出典：JETRO



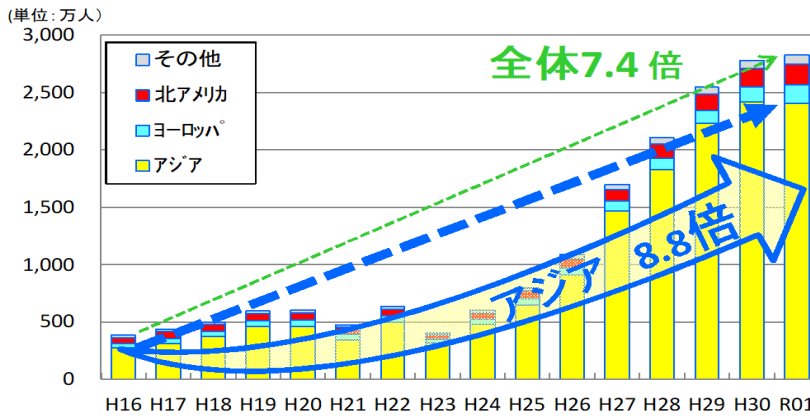
◇ クルーズ客船寄港状況（広島港）



出典：広島県港湾振興課調べ



◇ 訪日外国人観光者数の推移（国籍別）

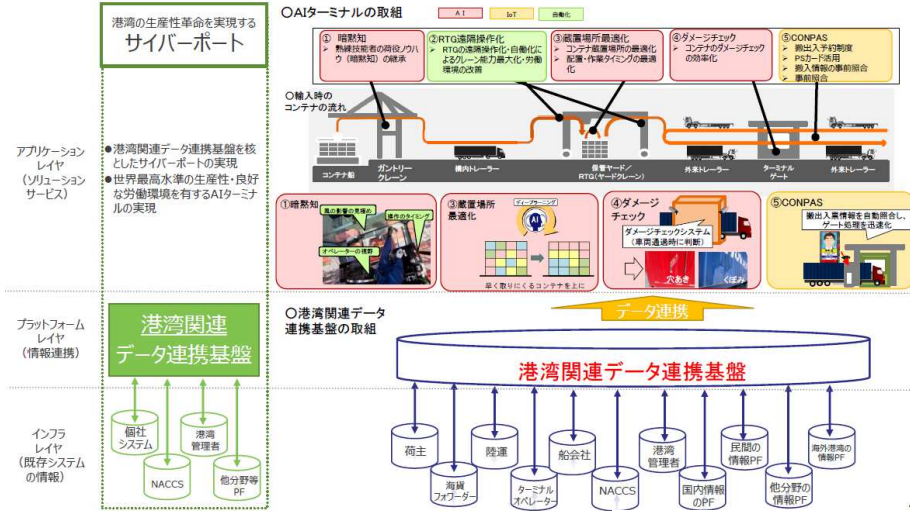


出典：日本政府観光局（JNTO）

◇ 国における港湾のIT関連政策（サイバーポート推進委員会資料より抜粋）

港湾におけるIT関連政策の全体像 国土交通省

○ 港湾関連データ連携基盤を核として、「CONPAS」（横浜港で実証中）をはじめとする各種施策を一体的に推進することで、匠の技とITが融合した世界最高水準の生産性と良好な労働環境を有するAIターミナルを実現。



出典：国土交通省  
港湾の電子化（サイバーポート）推進委員会資料

## 2 みなとにおける現状（強みと弱み）

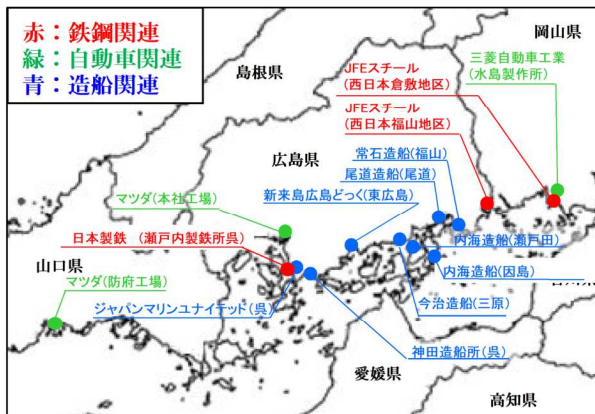
### □みなとの「強み」

- 成長が著しい東アジアに近い地理的優位性
- 空港・港湾・道路網の発達した広域交通ネットワーク
- 臨海部に鉄鋼，自動車，造船などの基幹産業が立地
- 中四国地方で唯一5万トン級のコンテナ船が係留可能
- 国内有数の自動車・鉄鋼・造船関連企業を有する広島港・福山港
- 国内有数の原木輸入拠点においてバイオマス燃料の輸送・保管も担う尾道系崎港
- 厳島に代表される歴史・文化資源などが点在
- 全国一のプレジャーボート隻数
- 中四国地方の中で定期航路網が充実
- 瀬戸内海の多くの島々に囲まれた好漁場が多くかきの生産量は全国一

#### ◇ 県境を越える井桁トの高速道路ネットワーク



#### ◇ 臨海部に基幹産業が立地



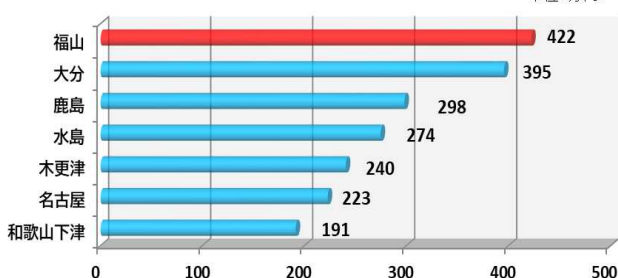
出典：数字でみる港湾 2019 より作成

#### ◇ 広島港国際コンテナターミナル



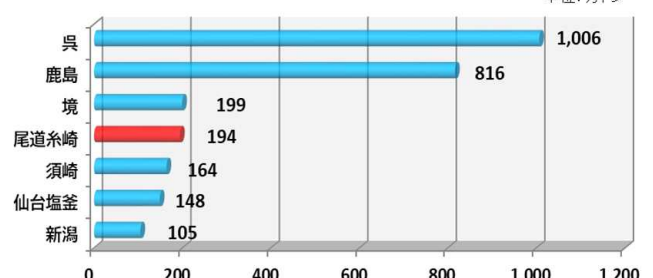
#### ◇ 背後に全国最大級の鉄鋼メーカーを有する福山港

鋼材+鉄鋼 輸出入取扱量上位7港(R1) 単位: 万トン

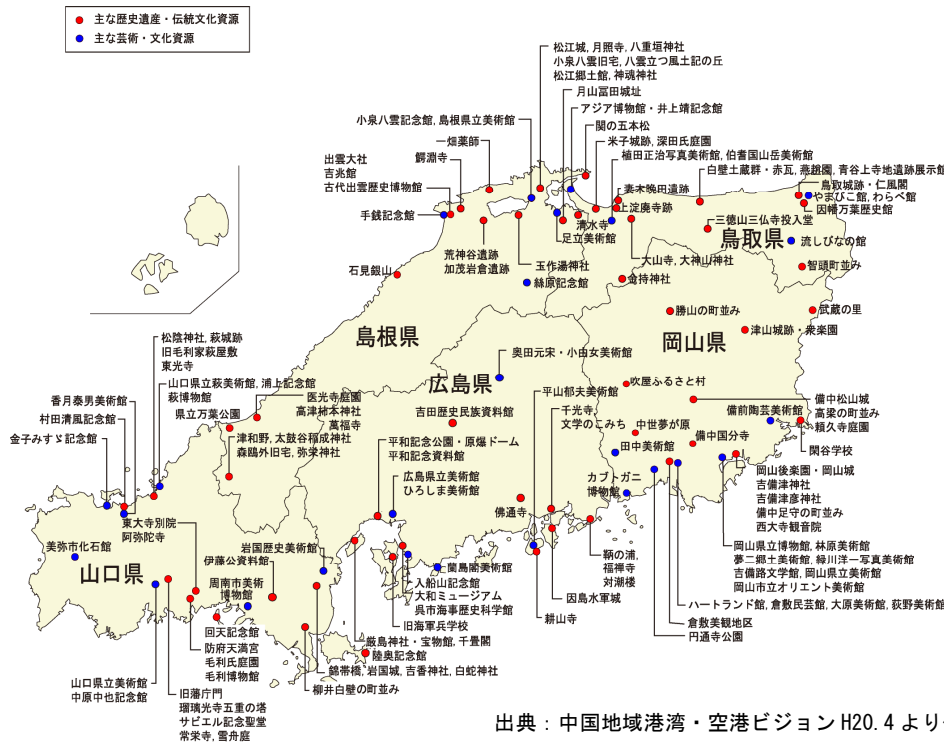


#### ◇ 全国有数の輸入原木取扱拠点を有する尾道系崎港

原木 輸入取扱量上位7港(R1) 単位: 万トン



◇ 中国地方の主な観光資源（歴史遺産・伝統文化資源, 芸術・文化資源）



世界遺産厳島神社を有する宮島

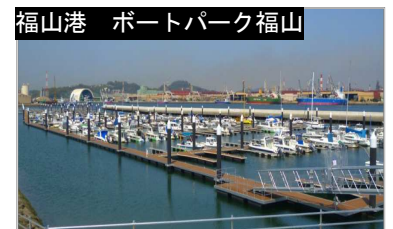
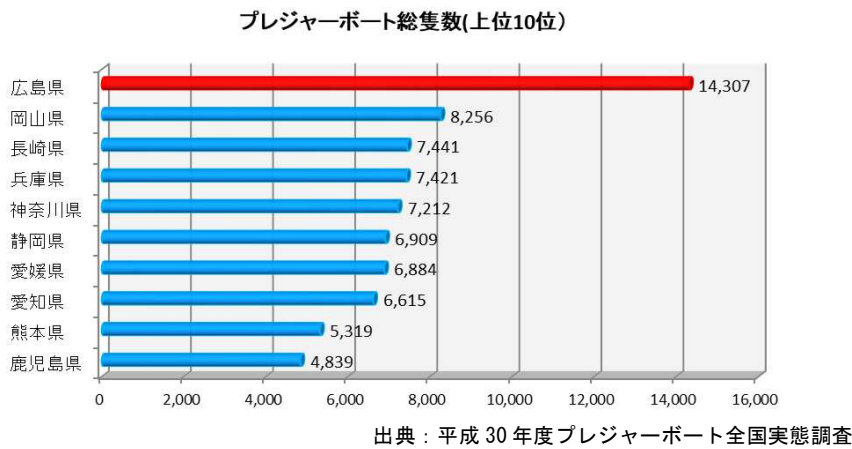


うさぎの島 大久野島

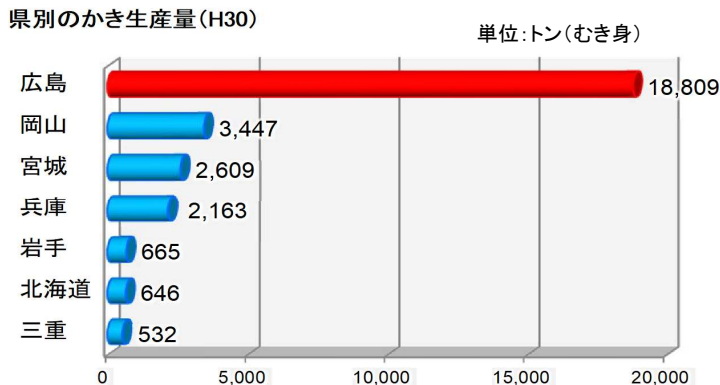


潮待ちの港 鞆の浦

◇ プレジャーボート総隻数（平成30年）



◇ 県別かき生産量ランキング



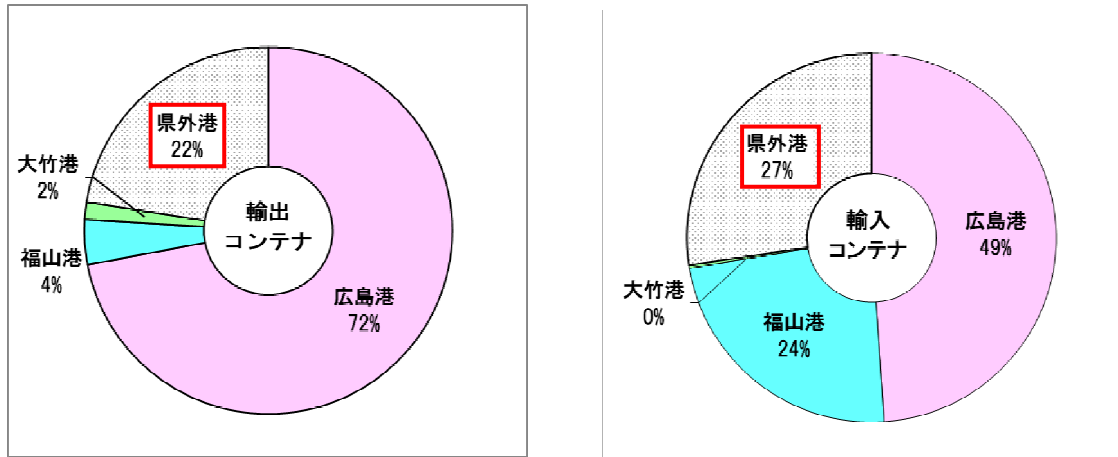
出典：農林水産省；漁業・養殖業生産統計年報（令和元年）より作成



## □みなとの「弱み」

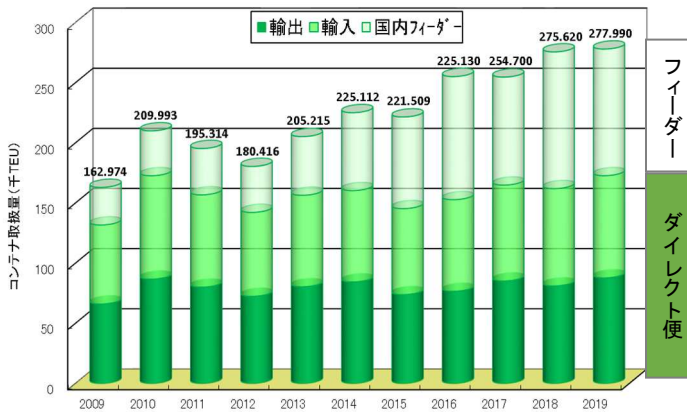
- 県内で生産・消費される輸出入コンテナ貨物の多くが県外港を利用
- コンテナ航路やクルーズ客船の誘致に対する近隣港との競争の激化
- 広島港臨海部の東西幹線道路未整備（ボトルネック）による交通渋滞の発生
- 観光地への海上アクセス基盤が脆弱
- 放置艇による環境悪化など弊害
- 耐震強化岸壁や物流関連用地の不足
- 島嶼部フェリーの減少による生活利便性の低下
- 漁業従事者の高齢化が進展
- 高度経済成長期に整備された多くの港湾・漁港施設の老朽化が懸念

### ◇ 県内で生産・消費される輸出入コンテナ貨物の県内港湾利用率



出典：H30 全国輸出入コンテナ貨物流動調査より作成

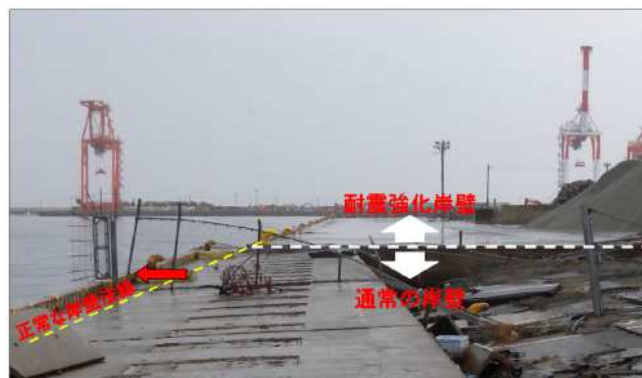
### ◇ 広島港コンテナ貨物量の推移



### ◇ 広島港（五日市・廿日市地区）臨港道路の渋滞



### ◇ 被災地における耐震強化岸壁と一般岸壁（事例）



出典：東日本大震災による各港湾の被災状況 写真集（国土交通省）



### 3 港湾・漁港が担う「目指す県土の将来像」 ～10年後の社会資本の目指す姿～

#### 【安全・安心な県土づくり】～安全・安心を支える総合的な県土の強靱化～

##### 減災・防災対策の充実・強化

- 港湾・漁港施設の耐震補強対策が進んでいます。
- 臨海部における防災拠点機能の充実・強化が図られています。

##### 安全で快適な交通環境づくりの推進

- 生活航路等における安全で快適な利用環境の整備が進んでいます。
- 放置艇対策の推進(航行船舶の安全確保)が図られています。

#### 【県の強みを生かした県土づくり】～交流・連携を支えるネットワークの充実・強化～

##### 経済・物流を支える基盤の強化

- 臨海部における物流関連用地の造成, 港湾物流基盤の充実が図られています。
- 県西部の物流拠点における広島市東西を物流交通基盤の充実が図られています。
- ドライバー不足やモーダルシフト推進に対応する港湾機能の強化・サービスの充実が図られています。
- 効率的に多くの貨物を海上輸送するための物流基盤整備, 高度な流通加工等に対応したロジスティック機能の充実・強化が進められており, 瀬戸内海全体における最適な港湾物流ネットワークの形成が図られつつあります。

##### 集客・交流機能の強化とブランド力向上

- 世界遺産「厳島神社」をはじめとする観光の玄関口における港湾施設の充実が図られています。
- 国内外クルーズ客船の誘致に向けた港湾施設整備, 寄港時のおもてなしの充実, PB等による海からの観光地訪問など新たなクルージングの推進が図られています。

#### 【魅力ある持続可能な県土づくり】～魅力的で持続可能な社会を支える基盤形成～

##### コンパクトで持続可能なまちづくりの推進

- 歴史的遺構の価値保存を踏まえた護岸整備等による快適な海辺空間の提供や海の駅・みなとオアシス等を活用した臨海部の賑わい施設の充実が図られています。
- 島嶼部と本土を結ぶ海上交通結節点となる港湾機能の維持・充実や主要施設におけるバリアフリー化が図られています。
- 漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の機能維持・強化が図られています。

##### 環境保全と循環型社会の構築

- 公共残土や浚渫土等の受入施設整備の推進が進められています。
- 藻場・干潟等の浅海域の保全・再生が図られています。
- バイオマス等自然・再生エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を支援するための港湾機能の充実が進められています。
- 生活航路等における安全で快適な利用環境の整備が進んでいます。(再掲)

## 4 みなとの取り組むべき課題

### 課題1 経済交流基盤を支える港湾機能の充実・強化

- ・ 企業活動のグローバル化や船舶の大型化，物流用地不足への対応が求められている。
- ・ 臨海部の土地需要の増大により，企業立地用地が不足している。
- ・ 交通渋滞を解消し，企業等の生産性向上に資する円滑な人流・物流ネットワークの構築が求められている。
- ・ 県内及び周辺地域の企業の多様なニーズに資する港湾物流ネットワークの形成や港湾物流サービスの構築等が求められている。
- ・ コンテナターミナル運営において，デジタル技術を活用した港湾機能の高度化や民間活力を生かした質の高い港湾サービスの提供が求められています。
- ・ 大阪万博など国際的なイベントの開催を見据え，観光地への玄関口となる港湾施設の機能強化が必要となっている。
- ・ 瀬戸内の島々が注目されている中，臨海部においても観光・交流拠点の魅力向上に資する新たな交流・賑わいの創出・充実が求められている。
- ・ 地域経済の活性化に資するクルーズ客船の誘致を促進するとともに，クルーズ客船の安全・安心な利用に向けた寄港時における感染症予防対策・体制の構築など受入環境の整備が必要となっている。

◇ 物流効率化，産業団地立地への対応（広島港廿日市地区・五日市地区など）





◇ 大型船舶への対応（広島港出島地区・福山港箕島地区など）



◇ 観光地への玄関口となる「みなと」の整備（厳島港宮島口地区・忠海港忠海地区など）





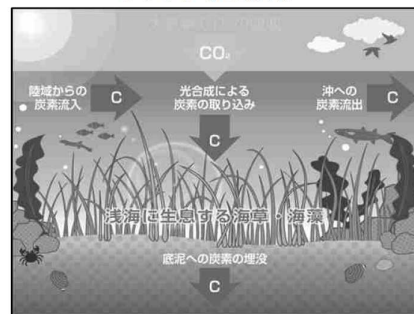
## 課題2 生活・暮らしを守る港湾・漁港機能の充実・強化

- ・藻場・干潟等による海域環境の保全・再生が求められている。
- ・耐震強化岸壁が不足しているなど、災害時における緊急輸送網の確保が急務となっている。
- ・切迫している南海トラフ地震の発生や近年の台風の大型化などを踏まえ港湾・漁港BCPの充実や産業活動のリダンダンシーの確保が求められている。
- ・災害発生土砂や公共残土・浚渫土等の受入施設が不足への対応が必要となっている
- ・誰もが安心して利用できるよう旅客施設のバリアフリー化を進めていく必要がある。
- ・島嶼部等では生活航路の維持、充実が地域の重要な課題である。
- ・プレジャーボート等の係留場所不足による無秩序な係船や放置艇の沈没船化が散見され、船舶の安全な航行や景観阻害が課題となっている。
- ・台風等の荒天時においても、港内の船舶が安全に係留できる機能の確保が求められている。

### ◇ 浚渫土砂を有効利用した干潟の造成（尾道糸崎港機織地区国際物流ターミナル整備事業）



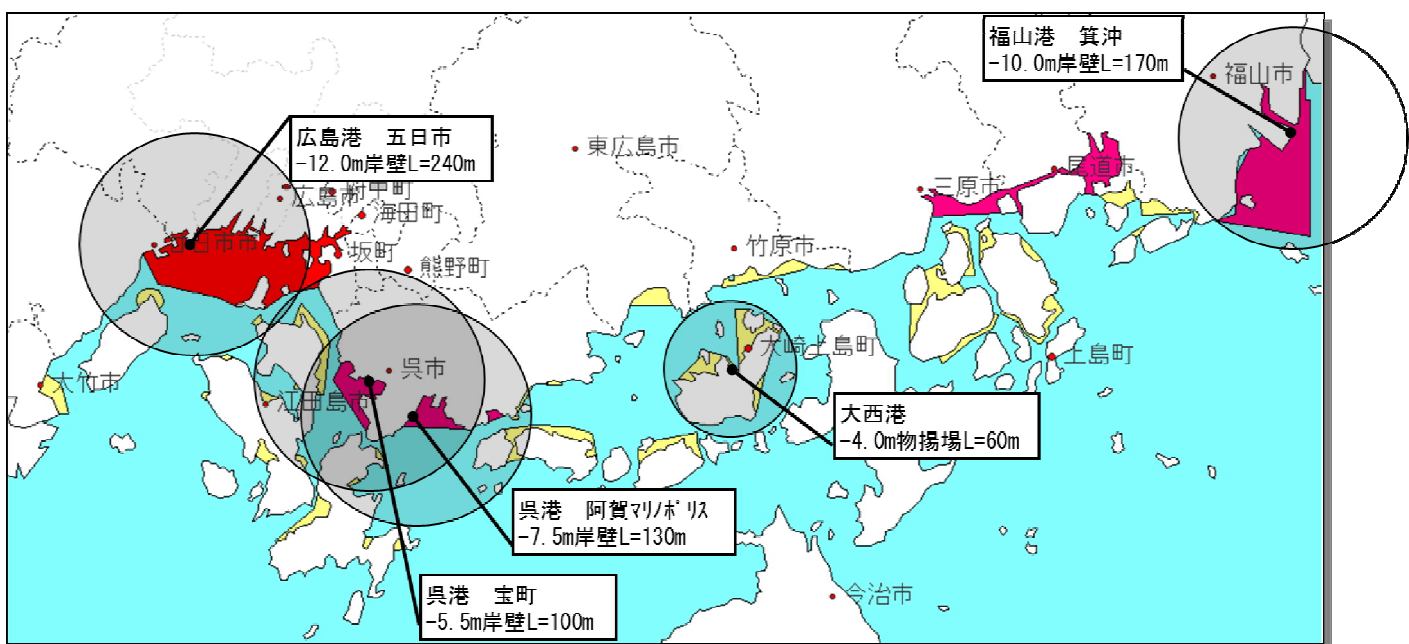
ブルーカーボン生態系によるCO<sub>2</sub>吸収のしくみ（JBE資料）



国連環境計画（UNEP）報告書によれば陸より海の方が多くの炭素を吸収（1.5倍程度と推定）

出典：令和3年度港湾局関係予算概算要求概要（令和2年9月国土交通省港湾局）

### ◇ 耐震強化岸壁の整備状況



※図中の港・施設は耐震強化岸壁

◇ 旅客施設の利便性・安全安心の向上（厳島港胡町地区など）

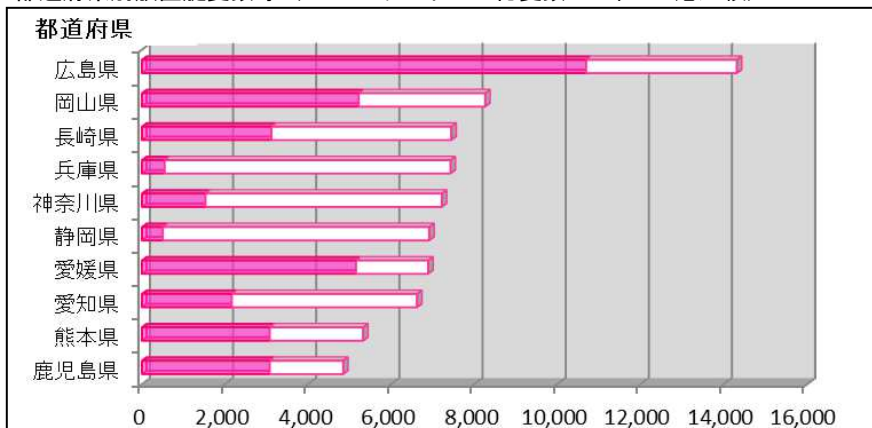


◇ 島嶼部等の生活航路の維持・利用環境の充実（大竹港小方地区・大西港大西地区など）



◇ プレジャーボート等の係留場所が不足

都道府県別放置艇隻数等（プレジャーボート総隻数の上位 10 港比較）



※グラフ中の桃色バーは、総隻数のうち放置艇隻数を示す  
出典：平成 30 年度プレジャーボート全国実態調査





### 課題3 地域活動を支える港湾・漁港機能の充実・強化

- ・観光・交流拠点の魅力向上に資する臨海部の賑わいの場の充実が求められている。(再掲)
- ・島嶼部等では生活航路の維持，充実が地域の重要な課題である。(再掲)
- ・係留場所不足により干潮時の準備・陸揚作業が困難な状況となっており，円滑な漁業活動に支障をきたしている。
- ・担い手確保に資する就労環境改善のため，地域の産業活動を支える漁業施設などの安全性や利便性の向上に向けた取組が求められている。

#### ◇ 臨海部の賑わいの場



#### ◇ 小型船係留状況

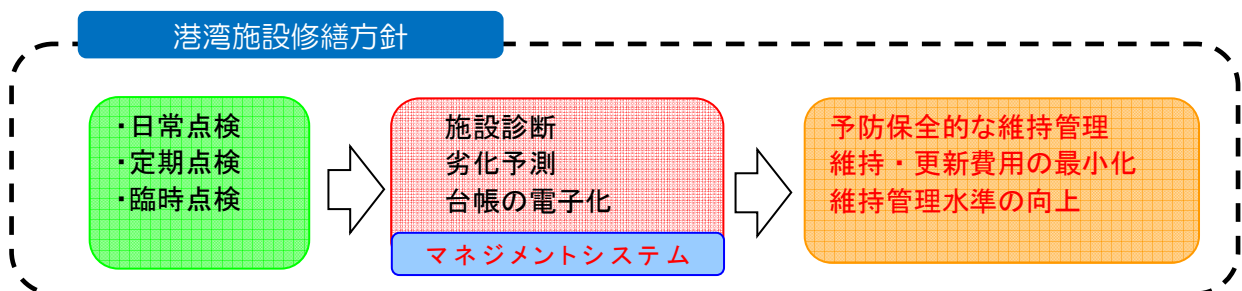


### 課題4 既存施設の有効活用及び老朽化施設の維持管理への対応

- ・「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」，「修繕方針」等に基づく，戦略的な維持管理や更新が必要となっている。
- ・近年，世界の旅行市場に影響力を持つ複数の旅行雑誌から注目すべき旅行先として「SETOUCHI」が選出されており，海からの観光地訪問や瀬戸内海へのクルージングの促進等においては，港湾・漁港施設の利活用が必要となっている。
- ・老朽化・低利用化した施設の利用転換や再編などが必要となっている。
- ・県内及び周辺地域の企業の多様なニーズに資する港湾物流ネットワークの形成や港湾物流サービスの構築等が求められている。
- ・コンテナターミナル運営において，デジタル技術を活用した港湾機能の高度化や民間活力を生かした質の高い港湾サービスの提供が求められています。(再掲)

#### ◇ 戦略的な維持管理の推進

- 『インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み』の策定  
⇒施設全体の維持管理をマネジメントする考え方を示したもの
- 『港湾施設の修繕方針』の策定  
⇒「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」に基づき，施設単位で修繕方針を示したもの



## 5 基本方針

次の4つの方針を基に今後5年間（令和3年度～令和7年度）の実施計画を策定し、これまでの成果や課題、社会情勢の変化や国が掲げる中長期的な政策等を踏まえて、利用者の視点・ニーズに対応したソフト・ハード対策を実施することにより、将来にわたって、地域の産業活動や安全で安心な暮らしを支え地域の持続的発展に貢献する「みなとづくり」を推進します。

### □みなと振興プランの基本方針

#### 方針1 物流・交流を支えるみなとづくり

（○：港湾， △：漁港）

##### （1）企業活動を支える物流基盤の強化

- 企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した大水深岸壁、航路・泊地の整備など港湾機能の拡充
- 生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成の推進 など

##### （2）交流・賑わい機能の強化

- 地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策
- △瀬戸内海や県内の魅力を生かした観光振興に資するみなと環境の整備 など

#### 方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり

##### （3）防災・減災対策の推進

- △切迫する巨大地震に対する耐震岸壁の推進
- △地域水産業の災害発生後の業務継続に資する漁港BCPの策定 など

##### （4）安全で快適な海上交通機能の維持・充実

- 放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策 など

##### （5）環境保全や資源循環を支援するみなと空間の創出

- 自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を支援するための港湾機能の充実
- 災害発生土砂や公共残土・浚渫土等建設副産物の有効活用にあ資する受入施設整備
- 海域環境の改善（藻場・干潟等）
- 環境負荷の少ない物流体系への転換（モーダルシフト）支援 など

#### 方針3 地域活動を支えるみなとづくり

##### （6）生活交通、漁業活動の円滑化や魅力的なみなとまちづくりの推進

- △島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実
- △漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実
- △地域の魅力を生かしたみなと環境の整備 など

#### 方針4 港湾・漁港施設の有効利用・適切な維持管理の推進

##### （7）既存施設の有効活用

- 遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換
- 港湾施設の利用を促すサービスの充実やポートセールスの推進 など

##### （8）効果的で適切な維持管理の推進

- △デジタル技術を活用した効果的・効率的な維持管理の推進 など

# □計画策定における課題と基本方針の関係

**社会資本未来プラン**  
 ~社会変化に適応した  
 インフラマネジメントの推進~

**みなとの取り組むべき課題**

**広島県みなと・空港振興プラン 2021**  
 計画期間：R2~R7（5年間）

**【目指す姿】**  
 ○県民が様々な場面において  
 「安全・安心」や「サービス  
 (利便性・快適性・生産性)」  
 等の向上を実現できる社会

**課題1 物流・交流を支える港湾機能の充実・強化**  
 ・欧米や中国を中心とした海外市場にとどまらずアジアの各地域の経済成長をはじめ、多くの新興国における経済活動の活性化により、これらの国や企業との新たな競争など、激しさを増している。  
 ・船舶の大型化により岸壁延長の不足や航路・泊地の水深不足により、非効率な輸送となっている。  
 ・交通渋滞により、円滑な物流が阻害されている。  
 ・物流用地、コンテナヤード不足への対応や質の高い港湾サービスの提供が求められている。  
 ・BCPの策定や産業活動のリダンダンシーの確保が求められている。  
 ・大阪万博等を見据え、観光地への玄関口となる港湾施設の機能強化が必要となっている。  
 ・地域経済の活性化に資するクルーズ客船の誘致を促進するとともに、コロナ禍に対応した安全対策など受入環境の整備が必要となっている。  
 ・観光・交流拠点の魅力向上に資する臨海部の賑わいの場の充実が求められている。

**◆方針1 物流・交流を支えるみなとづくり**  
 ~企業活動を支える物流基盤の強化~  
 ○企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した大水深岸壁、航路・泊地の整備など港湾機能の拡充  
 ○生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成の推進 など  
 ~交流・賑わい機能の強化~  
 ○地域の活性化に資するクルーズ客船の誘致や受入環境の充実に必要なハード・ソフト対策  
 ○△瀬戸内海や県内の魅力を活かした観光振興に資するみなと環境の整備 など

**【施策体系】**  
**【施策の柱】**  
**施策Ⅰ**  
 ~安全・安心を支える  
 総合的な県土の強靱化~  
**取組方針①**  
 防災・減災対策の充実・強化  
**取組方針②**  
 安全で快適な  
 交通環境づくりの推進

**課題2 生活・暮らしを守る港湾・漁港機能の充実・強化**  
 ・切迫している南海トラフ地震の発生や近年の台風の大型化などを踏まえ港湾・漁港BCPの充実や産業活動のリダンダンシーの確保が求められている。  
 ・干潟等による海域環境の保全・再生が求められている。  
 ・耐震強化岸壁が不足しているなど、災害時における緊急輸送網の確保が急務となっている。  
 ・誰もが安心して利用できるよう旅客施設のバリアフリー化を進めていく必要がある。  
 ・島嶼部等では生活航路の維持、充実が地域の重要な課題である。  
 ・プレジャーボート等の係留場所不足による無秩序な係船や放置艇の沈没船骸が散見され、船舶の安全な航行や景観阻害が課題となっている。  
 ・台風等の荒天時においても、港内の船舶が安全に係留できる機能の確保が求められている。

**◆方針2 生活・暮らしを支えるみなとづくり**  
 ~防災・減災対策の推進~  
 ○△切迫する巨大地震に対する耐震岸壁の推進  
 △地域水産業の災害発生後の業務継続に資する漁港BCPの策定 など  
 ~安全で快適な海上交通機能の維持・充実~  
 ○放置艇対策の推進に向けたハード・ソフト対策 など  
 ~環境保全や資源循環を支援する  
 みなと空間の創出~  
 ○自然エネルギー燃料の効率的な輸送・保管を図るための港湾機能の充実  
 ○災害発生土砂や公共残土・浚渫土等建設副産物の有効活用に資する受入施設整備  
 ○海域環境の改善（藻場・干潟）  
 ○環境負荷の少ない物流体系への転換支援など

**施策Ⅱ**  
 ~交流・連携を支える  
 ネットワークの充実・強化~  
**取組方針③**  
 経済物流を支える基盤の強化  
**取組方針④**  
 集客・交流機能の強化と  
 ブランド力向上強化

**課題3 地域活動を支える港湾・漁港機能の充実・強化**  
 ・災害発生土砂や公共残土・浚渫土等の受入施設が不足しており、新たな受入施設の確保が費用となっている。  
 ・観光・交流拠点の魅力向上に資する臨海部の賑わいの場の充実が求められている。(再掲)  
 ・島嶼部等では生活航路の維持、充実が地域の重要な課題である。(再掲)  
 ・小型船の係留場所不足などにより、円滑な漁業活動に支障をきたしている。

**◆方針3 地域活動を支えるみなとづくり**  
 ~生活交通、漁業活動の円滑化や魅力的な  
 みなとまちづくりの推進~  
 ○△島嶼部など地域を支える生活航路の維持・充実  
 ○△漁業活動の拠点となる港湾・漁港施設の維持・充実  
 ○△地域の魅力を生かしたみなと環境の整備 など

**施策Ⅲ**  
 ~魅力的で持続可能な  
 社会を支える基盤形成~  
**取組方針⑤**  
 コンパクトで持続可能な  
 まちづくりの推進  
**取組方針⑥**  
 環境保全と循環型社会の構築

**課題4 既存施設の有効活用及び老朽化施設の維持管理への対応**  
 ・「インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み」、「修繕方針」に基づく、戦略的な維持管理や更新が必要となっている。  
 ・近年、世界の旅行市場から注目すべき旅行先として「SETOUCHI」が掲げられており、海からの観光地訪問や瀬戸内海へのクルージングの促進等においては、港湾・漁港施設の利活用が必要となっている。  
 ・老朽化・低利用化した施設の利用転換や再編などが必要となっている。  
 ・コンテナターミナル運営において、民間活力を生かした質の高い港湾サービスの提供が求められている。(再掲)

**◆方針4 港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進**  
 ~既存施設の有効活用~  
 ○遊休施設など既存ストックを活用した新たなニーズへの利用転換  
 ○港湾施設の利用を促すサービスの充実やポートセールスの推進 など  
 ~効果的で適切な維持管理の推進~  
 ○△デジタル技術を活用した効果的・効率的な維持管理の推進 など

**共通施策**  
 ~社会資本の適切な  
 維持管理の推進~

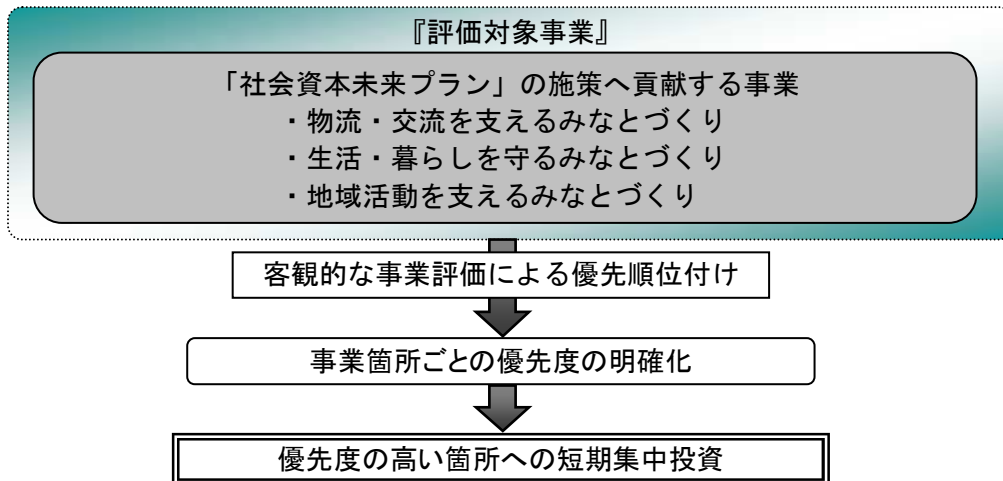
**効果を高めるための施策**  
 デジタルトランス  
 フォーメーション  
 (広島デジラ構想)の推進



## II 実施計画

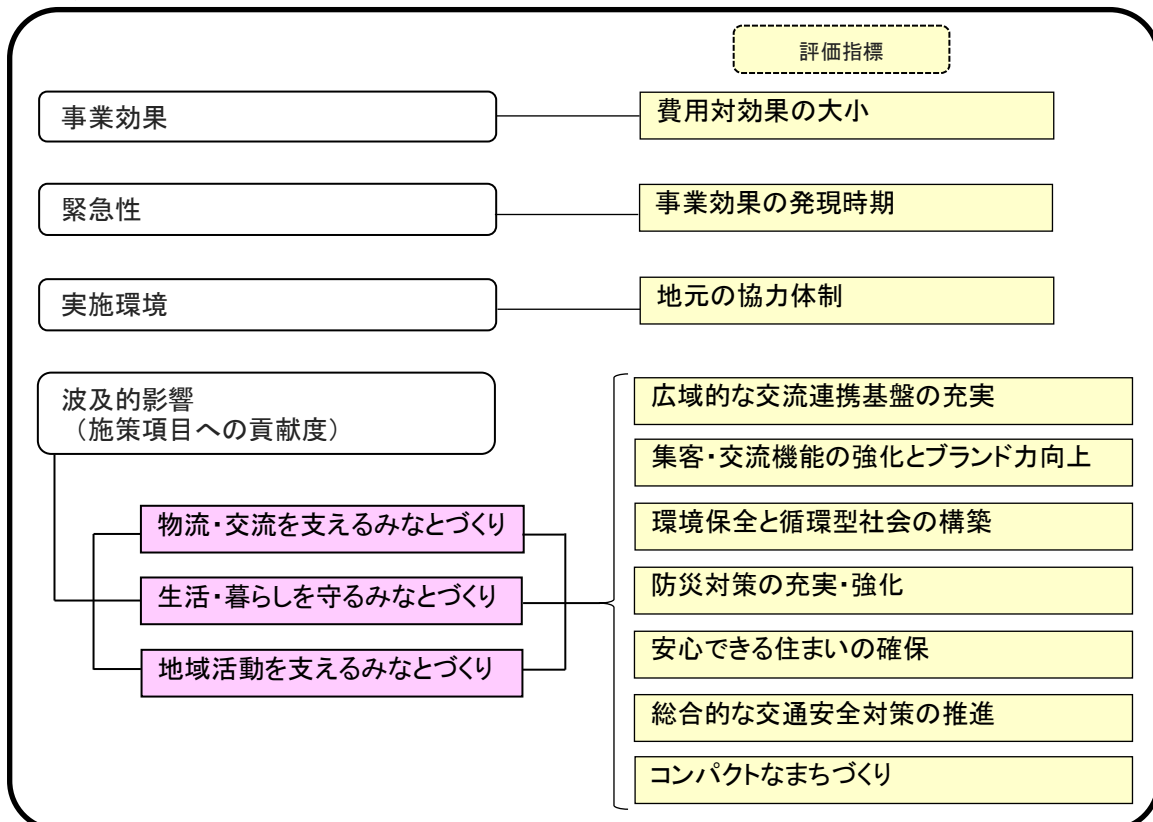
### □優先度評価

- 港湾・漁港整備事業については、「選択と集中」による戦略的な整備を推進し、「早期効果の発現」を図るため、客観的な評価基準を用いた優先度評価によりA、Bの段階に分類する。
- 中でも特に重点的な投資が必要な事業は、優先度Aの最優先事業として評価する。
- 港湾整備事業と漁港整備事業の優先順位は、区別して評価する。



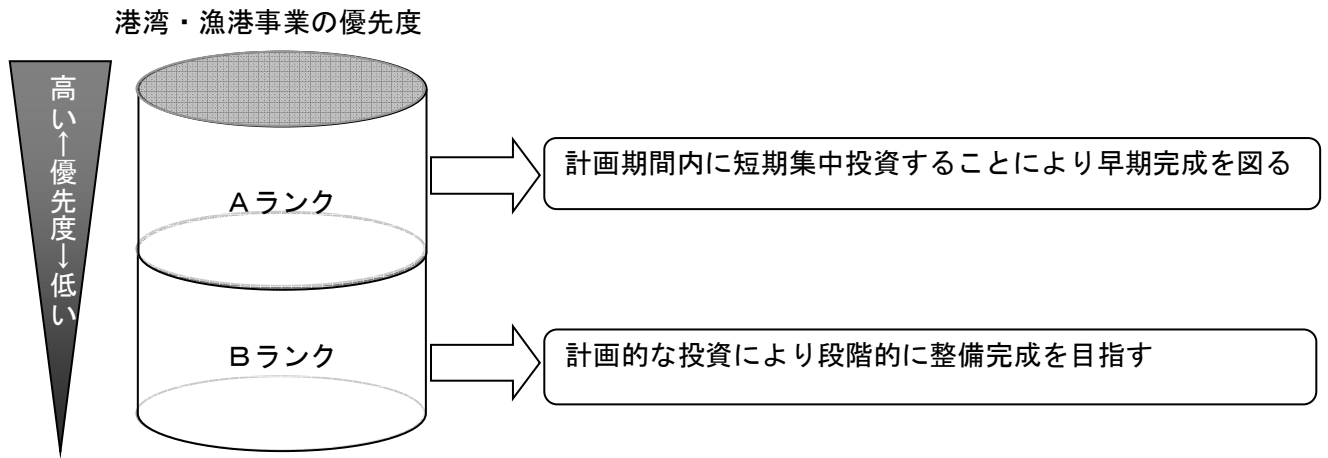
### □優先度評価指標

評価指標は次に示すとおり、事業箇所毎に各指標別の評価を行い、合計点を算定します。  
(港湾・漁港共通)

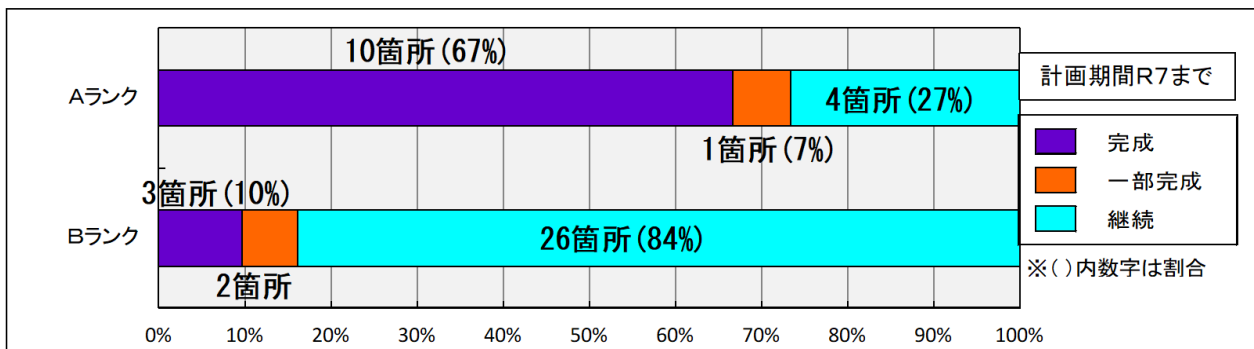


## □優先度ランクごとの対応方針

優先度評価 A, B 別の対応方針は次に示すとおりです。



## □実施計画



主な事業実施箇所は、次に示すとおりです。

### ○港湾整備事業

区分	主な事業箇所	箇所数
完成	広島港 廿日市・五日市地区 臨港道路	(5箇所)
	厳島港 宮島口地区 臨港道路, 緑地等 など	10箇所
一部完成	福山港 箕島・箕沖地区 岸壁, 航路, 泊地	(1箇所)
	大竹港 小方・飛石地区 臨港道路等 など	3箇所
継続	尾道系崎港 機織地区 泊地・航路等	(8箇所)
	釣士田港 藤の脇地区 防波堤 など	25箇所
合計	上段( )は新規箇所数	(14箇所) 38箇所

### ○漁港整備事業

区分	主な事業箇所	箇所数
完成	走漁港 本浦地区 防波堤	3箇所
	音戸漁港 鯛浜地区 浮棧橋 など	
継続	倉橋漁港 本浦地区 防波堤, 浮棧橋	(3箇所)
	倉橋漁港 室尾地区 防波堤 など	5箇所
合計	上段( )は新規箇所数	(3箇所) 8箇所



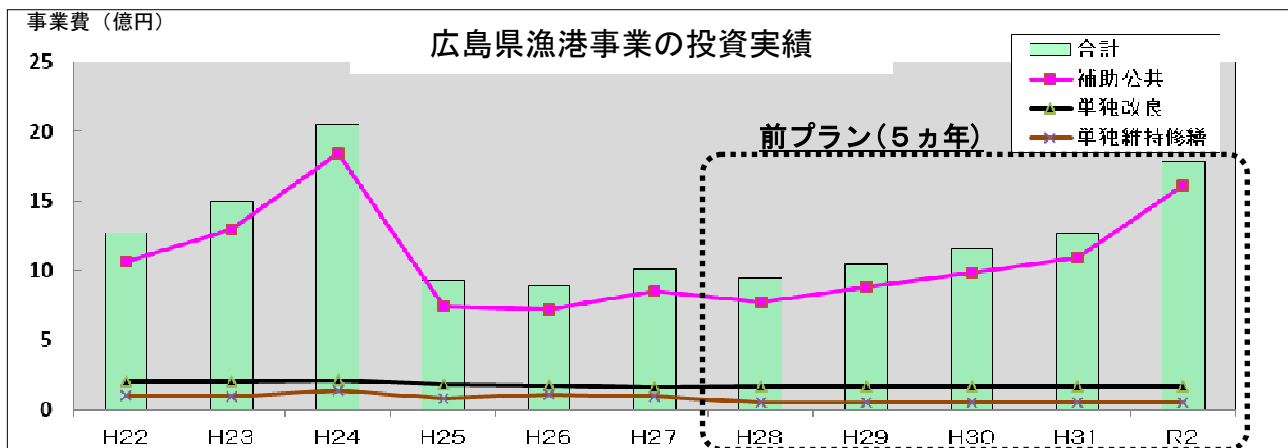
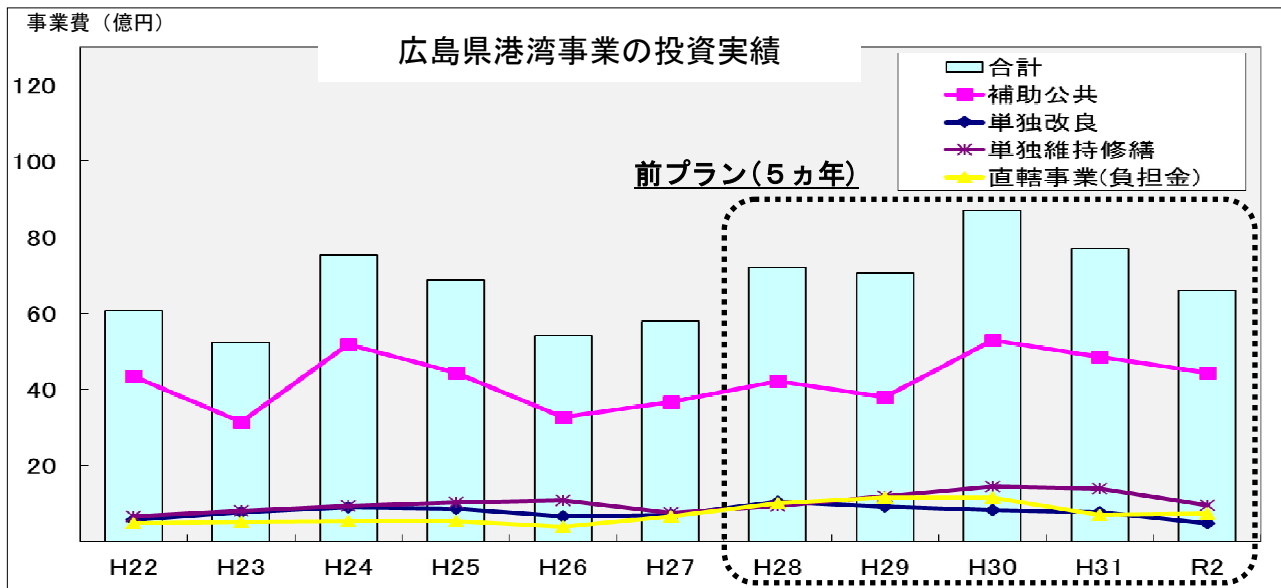
## □投資予定額

投資予定額は、「中期財政運営方針」を前提として、「社会資本未来プラン」における、社会資本整備の優先順位を踏まえて、設定しています。

■ 投資予定額 : 概ね410億円

区分	事業別	R3～R7事業費	
港湾	補助公共事業費	約 228 億円	
	単独公共事業費	建設事業費	約 47 億円
		維持修繕費	約 26 億円
	直轄負担金	約 60 億円	
合計		約 361 億円	
漁港	補助公共事業費	約 42 億円	
	単独公共事業費	建設事業費	約 8 億円
		維持修繕費	約 3 億円
	合計		約 53 億円
総計		約 414 億円	

【参考】



## ◆方針1 物流・交流を支えるみなとづくり

### 【取組1-1】～企業活動を支える物流基盤の強化～

#### 【取組内容】

地域産業のグローバルな経済活動を支えるため、大水深岸壁の整備など港湾物流基盤の機能強化やデジタル技術を活用した荷役の高度化・効率化を図るとともに、利用者のニーズの高い航路を誘致するなど、瀬戸内海全体における国内外の港湾物流ネットワークの拠点としてのグローバルゲートウェイ機能の強化に取り組みます。

また、企業活動の生産性の向上や地域活動の活性化に繋がる輸送・移動の円滑化のため、井桁状の高速道路ネットワークや幹線道路へアクセスする臨港道路の整備を推進します。

#### 【具体的な取組】

- 企業活動のグローバル化や船舶の大型化に対応するため既存施設を有効活用した大水深岸壁、航路・泊地の整備など港湾機能の拡充
  - ・地域産業の持続的発展やアジア諸国等との交易拡大を支える港湾機能の強化、効率的に多くの貨物を海上輸送するための港湾物流基盤の整備(国際戦略港湾、国際バルク戦略港湾等)～広島港出島地区・宇品地区、福山港箕島・箕沖地区、本航路(大型船舶に対応した岸壁整備、航路・泊地の水深確保)、尾道糸崎港機織地区(大型船舶に対応した航路・泊地の水深確保)など
- 生産性向上など企業活動を支える臨港道路整備や物流用地造成の推進
  - ・県西部の物流拠点における広島市東西を結ぶ物流交通基盤の充実～臨港道路廿日市草津線(広島港五日市・廿日市地区)など
  - ・臨海部における物流関連用地の造成、港湾物流基盤の充実～広島港出島地区、尾道糸崎港貝野地区(建設土砂等受入施設整備及び物流関連用地の造成)、広島港江波地区、大竹港東栄地区、忠海港忠海地区(臨港道路の整備)など
- 港湾サービスの充実およびポートセールス活動の推進
  - ・瀬戸内海全体における最適な港湾物流ネットワークの形成～東南アジア航路をはじめとした国際コンテナ航路の拡充、利用者ニーズを踏まえた新たな輸送モード/サービスの構築、港湾運営会社である㈱ひろしま港湾管理センターと連携した集荷促進など満たす航路の開設 など
  - ・高度な流通加工等に対応したロジスティク機能の充実・強化～効率的なターミナル運営、デジタル技術を活用した荷役機械の自動化・遠隔操作化の推進など

広島港国際コンテナターミナル(出島地区)



福山港国際コンテナターミナル(箕沖地区)



広島はつかいち大橋完成イメージ

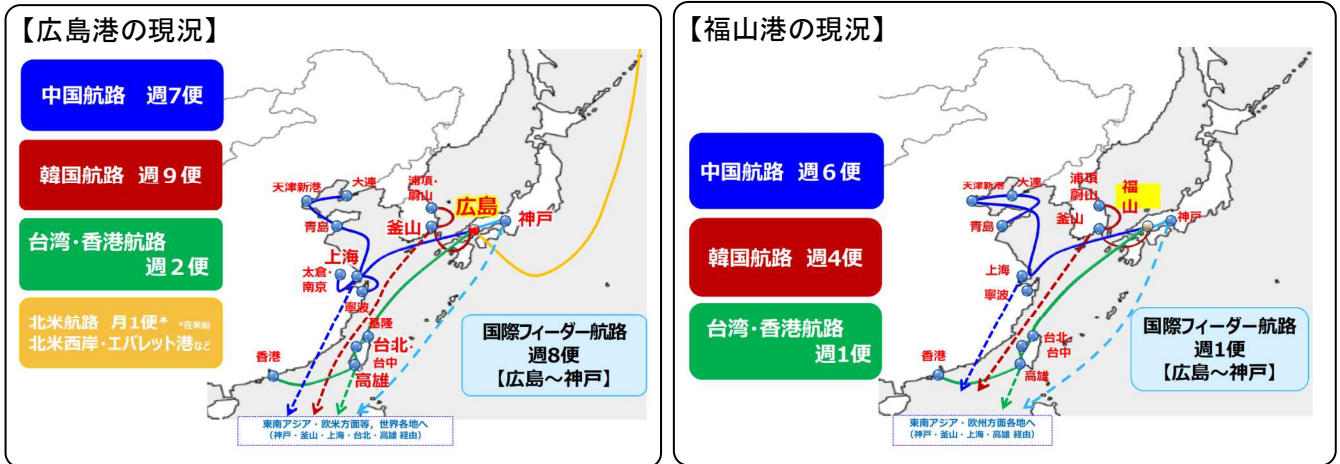


## 港湾サービスの充実およびポートセールス活動の推進

～港湾・漁港施設の有効利用や適切な維持管理の推進【方針4と共通】～

広島港のコンテナターミナルにおける港湾運営会社(株)ひろしま港湾管理センター)や多様な関係者と連携し、インセンティブ等の活用による効果的な集荷促進や利用者ニーズの高い航路の誘致などポートセールスを展開するとともに、デジタル技術も活用した質の高い港湾サービスの提供に取り組めます。

### ◇ 定期航路の現況 (R2. 12 時点)



### ◇ 広島港の拠点性の向上に資する港湾運営会社によるコンテナターミナル運営

#### コンテナターミナルの運営業務

- ① 利用者ニーズに応じたサービスの提供
- ② 船社・荷主への戦略的なポートセールス活動
- ③ 港湾施設の効率的な維持管理

#### 港湾運営会社制度の導入 (H29. 2)

港湾運営会社が港湾施設(広島港国際コンテナターミナルと海田コンテナターミナル)を長期的・一体的に借り受け、利用料金を自ら設定し、港湾運営を行うことにより、民間の経営手法を活かした運営の効率化やきめの細かい営業活動で得られた収益を原資とし、利用料金の値下げやインセンティブのための投資を行うことで、航路拡充や貨物量の増加が期待され、広島港の拠点性の向上に寄与していく。



### ◇ デジタル技術を活用した港湾サービスの提供に向けた取組

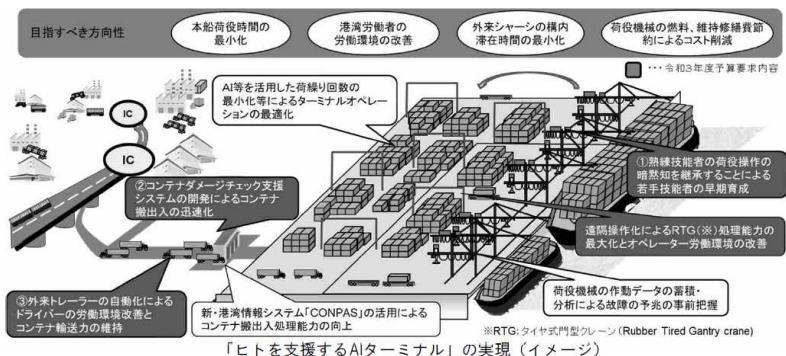
#### ◆ 港湾関連データ連携基盤の構築に向けた取組

港湾に関する情報を電子化することで、情報の利活用による利便性・生産性を高める「サイバーポート」の実現を目指す。



#### 【期待される効果】

- ・施設情報と利用状況など、利用者への多様な情報を提供
- ・手続きの電子化により、申請作業の簡素化・利用促進に寄与
- ・将来的に、港湾の開発、利用及び保全に関連する機能を付加



出典：令和3年度港湾局関係予算概算要求概要(令和2年9月国土交通省港湾局)